

# 子ども貧困

7

それは、九年前に卒業した教え子の声だった。埼玉県の県立定時制高校の職員室で電話を取った鈴木敏則先生(60)はすぐに分かった。

「僕、自殺未遂したんです」  
先生は努めて、いつもの訥々とした口調で応えた。「大丈夫。生きてれば良いことあるさ」

「今、自費で、いつか、少しずつ和らいでいった。先生、会ってもらえませんか」  
ヤスシは埼玉県郊外で病気の母と妹の三人暮らし。働きながら定時制高校と大学の夜間部を卒業した。だが、就職先がない。

「よつやくたどり着いたのが、愛知県内の自動車工場の期間工だった。給料は良かった。四年で三回も契約更新を拒否された。車ではなかったが、血が止まらなかった。この職務室に行くこと」

「は、労災だね」と言われた。「またクビになってもいいから、動転してしまっただけだ。ただ、話を聞いてほしかった。」

「野郎、死に場所を探して車でもさまよ、長野の山中で練炭自殺を試みた。通り掛かりの人に助け出された時に驚いた」。給食の時間に夏休み、食べるものがないという生徒を伺った。

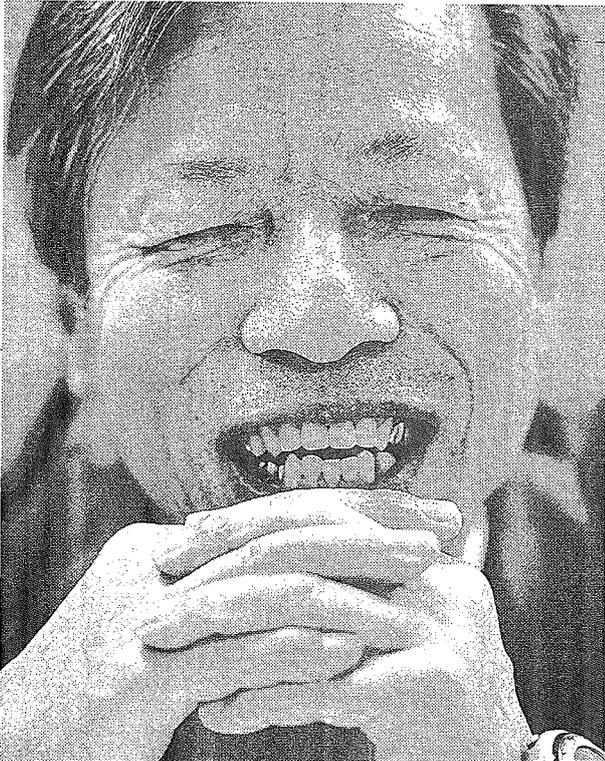
「先生も高校三年の時、初めて定時制高校に着任した。」「圧倒的に貧しい生徒の現実がなかった。」

「先生たちがカンパして助けてくれた。学びたいと思つのに壁に阻まれる生徒たちの姿は、過去の自分だ。」

## 教え子ずっと見守る

卒業証書を手にして

受話器の向こうで、ヤスシ(三〇)「仮名」の声が、少しずつ和らいでいった。「先生、会ってもらえませんか」  
ヤスシは埼玉県郊外で病気の母と妹の三人暮らし。働きながら定時制高校と大学の夜間部を卒業した。だが、就職先がない。



卒業後も教え子の相談に乗る鈴木敏則先生(東京都内)

### 10代の4割非正規

働く10代、20代の雇用環境は厳しい。内閣府の「子ども・若者白書」によると、仕事をしている15〜19歳のうち非正規雇用の割合は2007年で40・2%、20〜24歳は32・5%に達した。09年の失業率は15〜19歳で9・6%、20〜24歳で9・0%となっており、よつやく仕事をみつけても非正規が大半という実態がある。

働きながら通う定時制高校の生徒はとりわけ深刻だ。日本高等学校教職員組合の07年の調査によると、生徒の仕事は、非正規が9割に達している。賃金や就業時間が不安定なため、学校よりも仕事を優先せざるを得ない生徒が増えているという。

## 苦しむ姿 過去の自分重ね

も、生徒が貧困から抜け出せるわけではない。だから、教え子がいつでも頼ってこられるようにと、年賀状を欠かさず送り、近況を知らせ合う。

「傷害事件を起して中退した教え子が三年前ほど前、「印刷工場に働いています」とひよっこ顔を出した。」「いつか時が教員をやつていて良かったと思つ」と、先生は笑つて、実家に戻つたヤスシは、うつ病の治療のため通院しながら時折、学校に顔を見せる。

「先生みたいな教師になりたい」と告げたのは去年の夏だ。「うれしかったね」と鈴木先生は照れ笑いする。この三月に定年を迎える。しかし、ヤスシはいつまでも、教え子だ。

「第二部終わり」  
(取材班・星浩、小笠原寛明、長田弘己、森本智之、太田朗子)

第2部

先生たちの危機感

# 子ども貧困

6

ちやぶ台を囲む十四の瞳が見つめる中、園長の平松知子先生(画)は土鍋のふたをそっと持ち上げた。のぞき込

む子どもたちの顔を、湯気がふんわり包む。

古くからの民家が軒を並べるJR名古屋駅近くにある保育園。夜間保育に預けられた子どもたちの夕食はにぎやかだ。「園長センセ、ふうふうして」。小鉢を手に、子どもたちが平松先生に甘える。

園は週一回、夜の給食に鍋を出す。「あつたかい家庭の雰囲気を感じてほしい」。共働きやひとり親、一日の大半を家族と離れて過ごす子どもたちへの、職員のみぎやかな願いを込める。

トモちゃん(仮名)は誰より早く園に来

## 抱き締める心(づ)と

上げるのは日常茶飯事。「変なのっ」が口癖で、ちよっかいを出してはすべけんかを起こしてしまつた。

そんな時、平松先生はすべにしからない。代わりにぎゅうっと抱き締めた。「一緒に遊

びたかつたんだね」がとがってしまつた。トモちゃんは父

庭だ。幼稚園の年中の時、母親が家を出て行

った。仕事と子育て、で安心感や他人への信

頼をはぐくむ。現場は八十歳を過ぎた祖母の

で、そう学んだ。介護を抱えこんだ父親

は、トモちゃんを延長は独りぼっちだった。

朝の七時すぎに始まる早期保育で、トモ

ちゃんは優しい「お兄ちゃん」だ。泣きやま

ない乳児をあやそうと四苦八苦する職員の元に

駆け寄り、すっとおもちゃを差し出した。

「この子はこれがお気に入りなんだ」。赤

ちゃんがぴたりと泣きやむと、「ほらね」と、人

懐こい笑顔を見せた。けれども、八時を回

り、同じ年の子どもたちが次々と園にやってくる

ると、トモちゃんの表情はみるみる変わる。笑顔が消えうせる。

育園に転園させた。暮らしぶりは豊かではない。八百屋で働

ていた父親は、帰宅後も内職をして生計の足

しにしていた。「息子

を構ってやる余裕がな

かった」。トモちゃん

は独りぼっちだった。

朝の七時すぎに始まる早期保育で、トモ

ちゃんは優しい「お兄ちゃん」だ。泣きやま

ない乳児をあやそうと四苦八苦する職員の元に

駆け寄り、すっとおも

ちゃを差し出した。

「この子はこれがお気に入りなんだ」。赤

ちゃんがぴたりと泣きやむと、「ほらね」と、人

懐こい笑顔を見せた。けれども、八時を回

り、同じ年の子どもたちが次々と園にやってくる

ると、トモちゃんの表情はみるみる変わる。笑顔が消えうせる。

「どっせ、ぼくなん

ようだった。だから何度でも抱き締めた。「あなたは「困った子」なんかじゃない。いつかきつと花開く」

トモちゃんが卒園して、三月。小学校の休み時間、担任の先生

に近づいて来たトモちゃん

は、級友の名前を口にした。痙攣を起

して担任を困らせてばかりいる子だ。

トモちゃんはいった。あの子はね、先生

が嫌いじゃないんだ。きつと困っていること

があるんだよ。だから話を聞いてあげて

平松先生が小学校との会議で伝え聞いたト

モちゃんの近況。「ほんの少し遠回りだった

けれど...」。思いは届いていた。

今も時折、園に顔を

出すトモちゃんはサッカーに夢中な、優しい

「お兄ちゃん」だ。春

が来れば、トモちゃんは三年生になる。



家族のように接しながら、子どもたちに夜の給食を食べさせる平松知子園長(左)＝名古屋市内の保育園で

### 認定こども園 質に危機感

働く親と子どもを支える保育の現場。だが、その様相は大きく変わるつととしている。国が2013年度から導入を目指す「子ども・子育て新システム」は、幼稚園と保育所の一体化施設「認定こども園」への移行や、企業参入の推進を盛り込む。「保育の質を保てない」と、危機感を抱く関係者は少なくない。

全国保育園団体連絡会事務局長の東方伸子氏は共著「子どもの貧困」で、こども園を①施設基準が現行の幼稚園や保育所より低い②認定基準が各都道府県に委ねられ、格差が広がる③子育て支援などのメニューを増やす一方で人も予算もつかない④と指摘。「子どもの保育保障の土台を崩しかねない」と訴える。

### 「いつかきつと」信じ続け

トモちゃんはいった。あの子はね、先生が嫌いじゃないんだ。きつと困っていることがあるんだよ。だから話を聞いてあげて。平松先生が小学校との会議で伝え聞いたトモちゃんの近況。「ほんの少し遠回りだったけれど...」。思いは届いていた。今も時折、園に顔を

第2部 先生たちの危機感

# 子どもも貧国 5

「何だよ、ブス」  
神奈川県境に近い東  
京・多摩地区の市立中  
学校の一年生の教室。  
アキラ君が突然、隣の  
席の女の子を怒鳴りつ  
けた。

泣き始めた生徒をな  
だめる同級生たちにも  
「お前関係ないだろ、  
消えろよ」。教室は騒  
然となった。二〇〇六  
年四月十三日、入学式  
の翌日のことだ。

アキラ君は席にじつ  
としていられない。授  
業中に奇声を上げ、校  
舎内をうろつく。同級  
生や教員を怒鳴った  
り、暴力を振るうこと  
もあった。勉強は苦手  
だ。

小学生のころ、発達  
障害と診断されてい  
た。小学校の先生から  
は「どうしようもない

子」と申し送りがあっ  
た。

担任の直子先生(五十  
は、「障害」では説明  
しきれない、とげとげ

## 寄り添い 親を救う

しい言動が気になっ  
た。注意すると、「親  
には言わないで」と泣  
き叫んで懇願する姿も  
引くかかった。

すさみ、おびえた心  
のかぎは、家庭にある  
はずだと、直子先生は  
直感した。

アキラ君の家庭は貧  
乏で、働いて生活。かんしは、有名な「荒れた学  
校」。この学区はベッド  
タウンの一角にはある

が、主要駅から遠く、バ  
スの便も悪い。公営団  
地が並び、経済的に不  
安定な保護者が多い。

「飛行機に乗って米  
国へ行ってみよう」。

アキラ君がふと「ぼし  
たひと言が、直子先生  
をはずとさせたことが  
ある。飛行機どころ  
か、新幹線にも乗った  
ことがないのに。この  
子も、閉塞感と必死で  
闘っているのだ、と先  
生は胸が痛んだ。

アキラ君の荒れは、  
なかなか収まらなかつ  
た。先生は多いときに  
は一週間に一度、家庭  
を訪れた。できること  
は、母親の愚痴を聞く  
ことだった。二時間、  
三時間と、耳を傾け続  
けた。

「アキラのことをも  
っと話したい」。母親  
がアキラ君と向き合っ  
強い意志を示し始めた  
のは二年の秋。家庭訪  
問を始めてから一年半  
が過ぎていた。

## 家庭訪問を重ね問題解決

卒業式の日。式の後  
のクラス会で、アキラ  
君の母親が涙を流して  
いるのに、直子先生は  
気づいた。かつては  
「あの子が憎い」と言  
っていた母親の温かい  
涙だった。その視線の  
先で、アキラ君は笑っ  
ていた。

子どもの抱える問題  
は、学校だけでは解決  
できない。だから「教  
師は、親に寄り添い、  
ともに生きようとする  
ことが大切だ」と直子  
先生は考え、家庭訪問  
にこだわる。

だが、学校への世間  
の視線が厳しさを増す  
中、家庭のデリケート  
な問題に触れることを  
躊躇する先生が増えて  
いる。家庭訪問そのも  
のをやめた学校も少な  
くない。

家庭の問題に立ち入  
るのはタブー、そんな  
雰囲気がある今の学校現場  
に生まれているとい  
う。(文中仮名)



「親を救わなければ、子どもは救われな  
い」。校舎を出て家庭訪問を重ね、親と  
関係を築いた中学校の先生＝東京都内

### 職業や年齢を教えない親も

東京都教職員組合「子どもを  
貧困と格差から守る連絡会議」  
の担当者によると、2002  
年、学校週5日制が始まり授業  
時間の確保が難しくなったこと  
をきっかけに、家庭訪問を廃止  
する学校が出てきた。行方場合  
でも、家の中まで上がらずに玄  
関先で済ませるケースが増え  
た。

背景には、保護者側のプライ  
バシー意識の高まりがあるよう  
だ。個人情報保護法などを理由  
に、自らの職業や年齢すら教え  
ることを拒む親が増えており、  
学校と家庭との接点が見つけに  
くくなっているという。

第2部

先生たちの危機感

# 子ども貧困

4

給食の時間は戦場だ。名古屋市内の小学校に勤める好子先生(まご)は毎日、ひどく頭を悩ませる。

「先生、コウジ君の方がおかずが多い」「先生、ヒトミちゃんがスパゲティばかり食べてる」。まるでヒナが親鳥に分け前をアピールするようだ。

そんな騒ぎを治めつつ、好子先生がこっそりと「ごはんを大盛りにする子たちがいる。朝食を食べて来ない児童だ。」

おなががすいていると、授業に集中できない。騒いで暴れると、他の子にも影響する。暴れる子は一人や二人は昔からいたが、数人となると、先生一人では対処できない。

「落ち着かないなあ。思っていたら、朝食を食べてきていない子ばかりだった」と最近、気づいた。

「汚いからやめた。冷蔵庫には、食材」と注意すると「だどころか調味料すら入って、タカオ君にとら

れちゃうもん」。タカオ君は授業中もじっとしていることができない、乱暴な振る舞いが目立っていた。

母子家庭で、母親は腹のせいだとは思わなかった。小学校を卒業して「どうしてるかなあ」と思っていたら、悪い

「まだ、家でごはんを食べさせてもらってないんだ」と愕然とした。

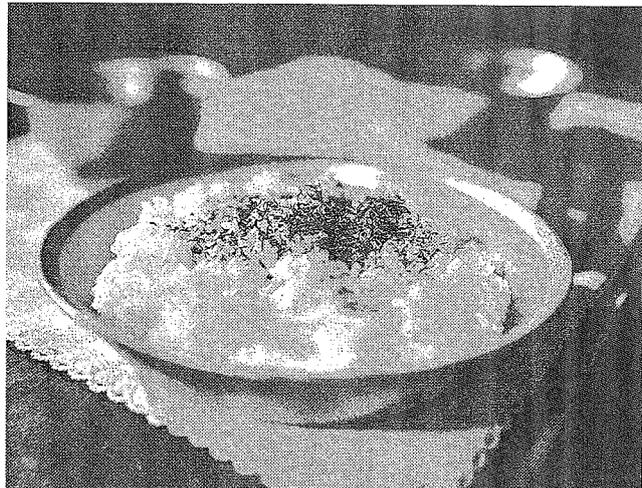
かつては例外的だったタカオ君のような存在は、今は特別ではない。だから、こっそりと保健室で……といことも、人数が多すぎて

せめて「給食のごはんぐらいは腹いっぱい食べて」と思うのだが、近ごろは、唯一の栄養源と思われる給食すら、ちゃんと食べられない子が出てきた。

「きんぴらゴボウ」や「ホウレンソウのおひたし」など、和食の献立に目を丸くする。「こんなの、初めて食べる」

ひどくやせた男の子がいた。「ちゃんごはんを食べていないの

## 栄養源 給食だけ



小学生の男児は給食で出されたふりかけご飯を「ごちそう」と言った

### 55%の学校に給食費未納者

給食費を滞納する家庭が増えている。文部科学省の推計では、学校給食がある全国の公立小中学校で、2009年度の給食費未納総額は約26億円。未納者のいる学校の割合は55・4%と過半数に達した。05年度の調査より11・8%増えた。

未納の原因について、学校が「一番多く指摘しているのが「保護者の責任感や規範意識の問題」で53・4%、続いて「経済的問題」が43・7%だった。09年度の平均月額給食費は、小学校は約4100円、中学校は約4700円。

### 増え続ける「空腹で乱暴」

「では」と周囲の親からも指摘されるほどだった。両親が行方不明で、親戚に育てられていた。

好子先生が「いっぱい食べなさい」と、給食をたっぷりよそってあげても、胃が小さくなってしまったせいにか、ほんの少ししか食べられなかった。

それでも、ふりかけの「ゆかり」を「ごはんにかける」と、「わあ、ごちそう」と喜んだ。

その子の夕食は「水をかけたごはん」だけ。家庭訪問しても、親戚には一度も会えなかった。結局、何もしてやれなかったことを、今でも悔やむ。

「先生、これどうする？」

今日もまた、給食の時間がやってきた。この日のおかずは、大人気のフライドポテト。さて、どうやって分けよつか。(文中仮名)

第2部

先生たちの危機感